

一筆
Ku



森田 康夫

元国土交通省熊本河川
国道事務所長

県道熊本高森線の俵山
ルートは、国道57号と並ぶ熊本→阿蘇の動脈。熊本地震では九州地方整備局が復旧事業を代行しました。ルートのうち俵山大橋、桑鶴大橋、大切畑大橋などの長大橋は損傷が複雑かつ大規模で、復旧に時間を要する状況でしたが、一方で俵山トンネルはなんとか補修が可能でした。

発災から1カ月後の2

016年5月、復旧を担当することになった熊本河川国道事務所は、俵山トンネルと旧道をつなぐ暫定の迂回路を計画し、本格的な工事をスタートさせました。

早期復旧の鍵は、現場の技術力と組織力。私は地元建設業界の力量や意

欲を十分把握した上で、国土交通省が普段用いない地元企業同士の共同企業体（JV）や随意契約を活用し、臨機応変に工事を発注していくました。受注企業は、整備局や他の事務所から派遣された精鋭の技術者たちと力を合わせ、昼夜を問わない体制で大幅な工期短縮を実現してくれました。

同年12月24日、本格的な降雪シーズンを前に、俵山ルートは復旧しました。年度内いっぱいはかかると思われた同ルート

開通式では、南阿蘇村の方々が手作りの旗を振って、工事関係者に感謝の気持ちを伝えてくださいました。「最高のクリスマスプレゼントをありがとうございました」という声が、私たちにとって最も最高の贈り物になったのは言うまでもありません。

熊本地震

最高のクリスマスプレゼント